

「水都」大阪、実は市内に山 8 つ

写真は日経 9 日夕刊「とことん調査隊」から。今年の正月、天王寺の茶臼山に登った。6 月には大阪港の天保山に初登頂した。市内に山が 8 つもあるとは、はじめて知った。関心のある記事なので抜粋して紹介する。

大阪市内主な 8 山の最高峰は、大阪市鶴見区と守口市にまたがる花博記念公園鶴見緑地にある鶴見新山。標高 39 ㍎と通天閣（高さ 108 ㍎）の半分に満たないものの、同区の担当者は「市内で海拔が最も高い大阪城の天守閣が立つ地点よりも高く、間違いなく市内最高峰です」と断言する。

鶴見緑地は広さ約 122 万平方㍎（甲子園球場の約 32 個分）。1990 年に 2300 万人超が訪れた花博の会場としても知られる。

うっそうと生い茂った木々に囲まれた階段を上ること、およそ 1 分。一気に登頂すると、眼前に花博のシンボルタワー「いのちの塔」。さらにその先に「あべのハルカス」を一望できた。

大阪市建設局によると、鶴見緑地周辺はもともとレンコン畑や田んぼが広がる湿地帯で、60 年代に入った頃から整備が進められた。高度経済成長期にあった当時、急激な人口増に伴う家庭ごみの処分は大きな課題。沼地だった緑地の一角を大量のごみや地下鉄建設の残土などで埋め立て、70 年代にかけて造成したのが鶴見新山だ。造成当初、山の標高は 45 ㍎。地中のごみが圧縮され徐々に低くなる一方で、72 年ころまでは生ごみからメタンガスが漏れ出し、自然発火することもしばしばあったという。

鶴見新山の次に高いとされる大正区の昭和山（標高 33 ㍎）。山頂の案内板には「地下鉄工場の残土など、約 170 万立方㍎（ダンプカー 57 万台）の土砂で造られ……」とある。この山もまた都市化の産物のようだ。地下鉄の整備に拍車を掛けたのが、大阪万博の開催決定だ。これに伴い、開幕前年の 1969 年までに計画よりさらに約 7 ㌔延伸することになった。地下鉄の建設残土は主に湾岸部に運ばれ、昭和山の造成にも使われた。「時期的に考えて、谷町線（開業 67 年）や千日前線（同 69 年）の建設現場のものだったのでは」と大阪メトロの担当者。「市内最高峰」の座は鶴見新山にのちに譲ったものの、山頂から沈む夕日や夜景を楽しめる人気スポットとして知られるようになった。

猛暑が過ぎてから、鶴見新山と昭和山の「登山」に出かけることにしよう。

(2022 年 8 月 14 日)

